



---

---

労働政策研究報告書 No. 66

2006

JILPT : The Japan Institute for Labour Policy and Training

---

---

---

---

## 中高年求職者の再就職支援のための ツール等の開発

プロジェクト研究

「ホワイトカラーを中心とした中高年離職者の再就職支援等に関する研究」

— 中間報告 —

労働政策研究・研修機構

# 中高年求職者の再就職支援のための ツール等の開発

プロジェクト研究

「ホワイトカラーを中心とした中高年離職者の再就職支援等に関する研究」

— 中間報告 —

独立行政法人 労働政策研究・研修機構

The Japan Institute for Labour Policy and Training

## まえがき

労働政策研究・研修機構では、2003年10月から、中長期的な労働政策遂行の課題に対応した研究の一つとして、プロジェクト研究「ホワイトカラーを中心とした中高年離職者の再就職支援等に関する研究」に取り組んでいる。

この研究テーマが、中期計画期間（～2007年3月まで）のプロジェクト研究の1つに掲げられた背景には、バブル経済崩壊後も長引く不況の中で、それまで「会社の中核にいた」ホワイトカラー中高年層までが、企業倒産や人員整理などにより、大量に外部労働市場に立ち現われ、滞留するようになったことが挙げられる。中高年期の離職は様々な困難な問題を伴う場合が多い。収入の道が閉ざされ、場合によっては家庭問題や子弟の教育問題などを抱えながら、離職者は、それまで形成してきたキャリアと今後形成すべきキャリアを統合するという難しい課題に直面させられるのである。

ハローワークを訪れる中高年離職者の質も変わり、抱える問題も複雑さを増している。過去に、中高年の再就職支援サービスの充実・強化が労働行政の重点的な施策になったことは少なくないが、従来との違いは、求人側である企業において、いわゆる終身雇用制が崩壊し、成果主義・実力主義を基調とする労務人事管理が進展する一方、求職側である離職者には多様で複雑なキャリア形成課題を抱える者が増える中で、この再就職支援サービスを推進しなければならない点である。新しくかつ困難な課題への対応が労働行政の現場に求められている。

本報告は、中高年離職者の再就職支援サービスを充実・強化するという労働政策の推進に寄与すべく、当該サービスで活用できる新しいツール等を3年半かけて開発しようというプロジェクト研究についての中間的なとりまとめである。ツール等の開発は一定の手続きを踏む必要もあり、時間がかかるものである。現在は、プロトタイプ版を完成し、いくつかの協力施設で小規模な試行実験を終えた段階であるが、今後、試行実験の結果を踏まえて修正を加え、より規模の大きな試行試験を繰り返して完成度を高め、計画期間内に実用版として公表することとしている。この段階であえて報告書として取りまとめ公表するのは、開発の現状を報告し専門家、実務家、あるいは政策担当者など広く関係者からご意見をいただき、さらに現場に役立つツールとして仕上げることを願うからである。本報告は第一線現場における業務の推進に、直接貢献するものではないが、再就職支援サービスに従事する担当者が、日々の業務を振り返る際に、少しでも刺激やヒントを提供するものになるとすれば幸いである。

2006年6月

独立行政法人 労働政策研究・研修機構  
理事長 小野 旭

執筆担当者（執筆順）

氏名	所属	執筆部分
まつもとじゅんぺい 松本純平	労働政策研究・研修機構 職業相談・就職支援部門 統括研究員	概要、第1部
しまだむつお 島田睦雄	労働政策研究・研修機構 職業相談・就職支援部門 主任研究員	第2部第1章
ながなわひさお 長縄久生	労働政策研究・研修機構 職業相談・就職支援部門 主任研究員	第2部第2章
やましたとしゆき 山下利之	労働政策研究・研修機構 特別研究員 (首都大学東京 都市教養学部教授)	第2部第3章
むろやまはるみ 室山晴美	労働政策研究・研修機構 職業相談・就職支援部門 主任研究員	第3部
かやのじゅん 権野潤	労働政策研究・研修機構 職業相談・就職支援部門 副主任研究員	第4部

# 目 次

概要	1
第1部 研究目標の設定	
1 問題の背景	7
2 研究目標の設定	11
3 開発研究目標と3つの開発テーマ	19
第2部 自己理解を支援するための新たなツールの開発	
第1章 「管理機能行動目録」の開発	25
1 中高年齢者の職業適性評価	25
2 管理機能行動目録の特徴	25
3 管理機能行動目録の開発	26
4 管理機能行動目録と課業遂行水準との関連	33
5 管理機能行動目録の尺度化	37
6 管理機能尺度の予測妥当性	40
7 考察	42
第2章 作動記憶と短期記憶の測定と評価	46
1 目的	46
2 記憶の働き	47
3 自己理解ツールの開発	52
第3章 “心の硬さ”の測定と評価	64
1 はじめに	64
2 “硬さ”について	64
3 硬さと職業への取り組み	69
4 予備調査	71
5 おわりに	75
資料	78
第3部 キャリア・プランニングを支援するための新たなガイダンスツールの開発	
1 研究の背景	85
2 予備調査の概要	88
3 システムの開発	97
4 今後の課題	109

#### 第4部 職業相談を的確にするための技法開発

1	職業相談の過程	111
2	発話分類の考え方	113
3	システムの開発の経緯	119
4	今後の計画	126